

私をとらえたイエス様の十字架



高尾公子

平成7年、阪神淡路大震災に遭い大打撃を受けた後、夫は印刷出版の会社整理を余儀なくされました。住み慣れた神戸を離れ大阪で暮らし始めてまだ2週間の頃、夫が「教会に行つてみたい。」と言いました。その疲れきった様子に私は「一度だけね。」と従いました。

教会では礼拝が始まっており、正面に掲げられた十字架を見つめていると、私に不思議な現象が起こったのです。それが幻なのか私の想像なのか分りませんが、十字架の右の壁の方から静かな音が私の耳に聞こえたので、そちらを見ますと、そこに冠をかぶった方が現れたのです。私は「イエス様だ！」と思いましたが、すると十字架は透けて大空となり、雲の中から巨大なイエス様が現れて私の頭上を覆い、ふっと消えると私の前に立たれました。私の頭の中では凄

い記憶のテープが回り、子供の頃に聞かされていた天罰の恐れと、年相応でない恥ずかしさで顔を上げられません。仰天して固まっている私でしたがイエス様のまなざしを感じました。イエス様はただ私を見ておられます。そつと目を上げると、イエス様の御手から透き通った雫がぼたぼた滴り落ちていきます。私は不思議な気持でそれを見ていました。それが何秒だったのか何分なのか分りませんが、たまらなくなって顔を上げると、耳元で「早くいらつしやい、早く。」と小さな優しい声が確かに聞こえたのです。そのとたん現象は消え十字架の掲げられた元の会堂になりました。気がつくといつかから涙が出ていたのか涙が止まりません。私は圧倒されたまま、お説教も殆ど聞こえませんでした。帰りの車の中で「イエス様が現れた！」と言いましたら、夫はプツと吹き出して「ありえない！」と大笑

しました。信仰心の無い私たちでしたから、「教会に行きたかったあなたに現れないで、どうして私に現れたの？」と聞く。と夫は「そら、お前の方が悪いからや。」と当然の様な口調で言いますので、いつもどちらの方が悪いのか言い合っているうち、私を圧倒していた緊張が消えて何だか嬉しくなりません。その日から涙がぼろぼろとこぼれては、味わったことのない解放感の中で心がときめいて嬉しくなるのです。私は神様、イエス様はどんなお方なのか知りたくなって、一度だけと言ったはずの教会の礼拝に毎週行くようになり、一年半後に「イエス様を信じます。」と揃って洗礼を受けました。

礼拝で牧師先生を通して聖書を学ぶうちに、「全ては神様の御手の中にある」（聖書）と知り、種々の拘りも薄れて心が楽になりました。

「神は愛なり」（聖書）なん

と尊い麗しい御言葉でしょう。この御言葉も救われてから知りました。一人で少しづつ築いたものを一度に無くした私たちでしたが、神様は夫婦揃ってイエス様の十字架の下に引き寄せて下さり、私たちの回復の為に必要な場所と時間を与えて下さったのです。そしてイエス様は私の愚かさ、弱さ、神様を知らないからこそ傲慢になって人も傷つけた私の罪を贖い赦して、光あふれる道に立たせて下さったのです。

神様の御前に出る心の準備もなく夫に付いて行った私でしたが、イエス様の十字架にあつという間に救われたのは、ただ神様の深い憐れみと恵みの他には無いと信じています。

与えられたどんな日々も、大いなる愛の力で支え導いて下さる神様、イエス様を仰ぎ見つつ感謝をもって歩んで行きます。

人のいのちは、持ち物にはよらない

このタイトルを目にして、「なるほど」と思われた方、「え、そうなの」と思われた方など、様々に受け止められたでしょう。実りの秋を前にして、豊かな収穫を願うのは当たり前ですし、それに連なる豊かな生活を願うのも、当然のことと言えます。

しかしイエスさまは、収穫の喜びである筈の「実り」について、警えでもって次のように警告されています。

○貪欲に対する警告

イエスさまは、人々が理解しやすいように多くの警えで語られましたが、その中の一つが「貪欲に対する警告」です。「貪欲」は、必要以上に手に入れようとする欲望です。

「ある金持の畑が豊作であった。そこで彼は心の中で、『どうしようか、わたしの作物をしまっておく所がないのだが』と思いめぐらして言った、『こうしよう。わたしの倉を取りこわし、もっと大きいのを建てて、そこに穀物や食糧を全部しま込もう。そして自分の魂に言おう。たましいよおまえには長年分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心せよ、食べ、飲め、楽しめ』。すると神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちに取り去られるであろう。そして、あなたが用意した物は、誰のものになるのか』自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである。（ルカによる福音書）」。

イエスさまは、貪欲に対する警告としてこの警えを話され、次のように諭されました。「たといたくさんの物を持っていても人の命は、持ち物にはよらないのである」と。

○この金持の問題点

一読するとこの金持は、「賢くて、判断力と実行力が有る」と思われます。しかし、「何故イエスさまが、貪欲に対す

警告として、この警えを話されたのか」の視点で読んでみますと、次第に問題点が浮かび上がって来ます。次の通りです。

①自分の事しか考えてなかった

有り余る収穫を目の前にして、その為に労した小作人へのねぎらいや、貧しい人々を助けるなどの姿勢が少しもなく自分さえ楽しく暮らせばよい、との姿勢であった。

②いつまでも生きていと錯覚していた

彼は、自分の魂に向って、「たましいよおまえには長年分の食糧がたくさん貯えてある。さあ安心せよ、食べ、飲め、楽しめ」と語っていますが、ここに大きな問題点があります。命を司っているのは、自分ではなくて神であり、人間の命のはかなさに気付いていないのです。

③神に対する恐れも感謝もない

豊かな実りを願って努力しても、人間の側には限界が有ります。人間の側の勤勉さや創意工夫なども大切ですが、それ以上に天候に恵まれ、様々な災害からも守られて、豊かな収穫を得ることができるのです。金持には、神に対する感謝が全く有りませんでした。

○祝福して下さっている神さまに感謝を

イエスさまは警えの最後で、「自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである」と警告されています。祝福を与えて下さっている神さまに対して、感謝を表すようでありたいものです。この神さまが、あなたの命を司っておられるのですから。



牧師 和田 忠三